エリック シュロ ディ 、元カトリック教徒、米国（1/2）

5.0

明:
元ラップスタ 、エヴァ ラストがいかにしてイスラ ムと出会ったかについてのインタビュ 。第一部。

目: 事新改宗者ムスリムの逸 男性

より: アディサ バンジャコ（インタビュア ）

日28 Feb 2011

集日 28 Feb 2011

ラップ ミュ ジックは、イスラ ムという宗教の多大な影 を受けてきました。ニュ ヨ クのグル プ、パブリック エナミ によるネ ション オブ イスラ ムへの敬意を めたラップや、A Tribe Called
QuestのQティップによる正 イスラ ムへの改宗など、この宗教は歌 や生活スタイルにおいて、ラップ ミュ ジックに い影 を与えてきました。そして音 界でエヴァ ラストとしてよく知られているエリック シュロ ディ もまた、最近イスラ ムに心を かされたというアティストの一人なのです。

ラップ ア ティストとして音 界のキャリアを き上げたエヴァ ラストですが、ここ最近ではア ティストとしての多 性と深さに磨きをかけています。彼の最新作「Whitey Ford Sings the Blues
」（ 在はビルボ ド ランキングの49位ですが、一 は9位にランクされていました）にはそれがよく反映されており、哲学的な面や、彼の人生に与えたイスラ ムの影 も随所に られます。

以下ではエヴァ ラストによるイスラ ム の旅と、彼が新改宗ムスリムとして直面する困を、インタビュ 形式でお えします。

AB（アディサ）: あなたが最初にイスラ ムを知ったきっかけについて教えてください
。

E: たしかあれは80年代の 半だったかな。俺はディヴァイン スタイラ （ロサンゼルスの人 ラッパ ）とたむろしていたんだが、あいつは5%（イスラ ムの名を るカルト、「ネ ション オブ ゴッズ アンド ア ス」のこと）の末期の で、真のイスラ ムに目 めつつあった。あいつはバシ ル ファミリ と一 に住んでいたんだが、アブドッラ バシ ルはディヴァインの 匠的存在で、 局俺もそうなった。ディヴァインの5%からイスラ ムへの 期、俺はあいつとよく一 にいたから、色んなことを いていたんだ。

俺が初めてイスラ ムを知ることになった 面を思い起こそうとしてるんだが 。たしかあれはデヴァインの友人がシャハ ダ（ムスリムの信仰宣言）をした 、俺がたまたま居合わせたのがそうだったんじゃないだろうか。俺はあいつが「私はアッラ 以外に真の神はなく、ムハンマドはかれのしもべであり、使徒であることを 言する。」と言ったのを いて、「何なんだ、これは? 俺は白人だぞ。ここに居てもいいのか? 」と思ったんだ。もちろん、それは 知からだったんだ。というのも、アメリカでイスラ ムは 人のものだと思われているからな。すると かがこう指摘したんだ。「お前は世界にどのくらいの白人ムスリムがいるか知らないな。」俺はこう言ったよ。「マジかよ。」そしたかがまた、俺に 明してくれた。「スゲ な。全然知らなかったよ。」

AB: あなたは米国に住む白人ムスリムとして、何か特 なプレッシャ のようなものを感じていますか?

E: 俺はそんなに大げさなこととしては考えていないよ。俺にとってイスラ ムはもう定着したものなんだ。アッラ は全世界、全人 、ア ラミ ン（全宇宙）の神であり、イスラムは俺と神との 人的な だからさ。だから俺自身の信仰の に しては、 も俺にとやかく言うことなんて出来ない。俺が礼 しているモスクに して言うなら、そこ以上に落ち着ける 所、 迎される 所はないね。いや、そこだけじゃなく、国内の 数のモスクでも、俺は一度も嫌な思いをさせられたことはない。たとえばニュ ヨ クなんかのモスクだと、とても大 の人が来るから、俺に づく人もいないしね。中国人、 国人、スペイン人なども

来るし、俺は地元のモスクで唯一の白人男性だけど、それはとても良いことだと思っている。

最初のうちは、ジュムア礼 （金曜合同礼 ）に行く度に、他の よりも考え んでいたんだ。初めてジュムアに行った は、友人と一 だった。そこはブルックリンのベッド スタイ（ベッドフォ ド スタイヴェサント）で、俺はモスクではなく、その界隈の安全性を心配していた程だったんだよ。でも一旦そこに入ると、本当に落ち着けたんだ。素晴らしいと思ったね。モスクにいた人々も、全く赤の他人とは思えないほどだったよ。

AB：イスラ ムへの改宗に して、あなたの家族はどのような反 を せたのでしょうか？あなたはカトリック教徒として育ったんですよね？

E：俺の母さんは偏 に囚われない、革新的な人なんだ。俺は彼女と暮らしている。俺は神を信仰するのではなく、神が存在するということを知らされて育てられた。俺はこの世界のことを知るなら、まず神が存在することを知るよう、教えられてきたんだ。母さんはカトリック教徒だけど、教会の 善を真っ先に指摘するような人で、 いこと教会に足を んでいない。だけど神を 出した俺のことに しては、喜んでくれているよ。

彼女は俺が礼 するのを目にしているし、ディヴァインのこともとても に入ってくれている。彼女は俺たちが子供だったときと比べて豹 したことをよく知っているよ。俺とディヴァインが最初に知り合ったのは、まだガキの だった。俺たちはパ ティ や喧 に明け暮れていたね。俺たちはこういうのを一人前の大人になることだって思ってた。ただのチンピラだったんだよね。

母さんは、俺とあいつがどんなに わったか　に目にしてきた。そしてその 化によって俺が 成したことから、どれだけ心のやすらぎを得られるようになったかに してもそうさ。　この前も、母さんとは宗教に して い　し合ったよ。生命や死、そして彼女がやがて死んでしまう未来に してもね。インシャ アッラ （神がお望みであれば）、それはそう くない未来だ。俺は彼女にひとつのお いをしたよ。俺はこう言った：「母さん、もし母さんが死んでしまったとき、天使たちが母さんに　すると思うんだ。俺はまだ死んでな

いからその　がどういうものかははっきりとは分からないけど、しっかりその　に答えて欲しい。神さまは唯一の存在で、 して人 なんかにはならなかったことを忘れないでいて欲しいんだ。」

彼女はこう言った：「あんたが言いたいことは分かってるよ。」それで俺はこう返した：「ジ ザスは神さまじゃなかったんだよ。」

俺が 得してきた知 は少しずつだが、　に母さんにも影 を及ぼしている。彼女はムスリムじゃないが、神が唯一であることを知ってる。俺はそのことがとても嬉しいんだ。イスラ ムに改宗した知人たちが、家族から突き放されてしまうケ スをたくさん知っているからね。

この 事のウェブアドレス:

https://www.islamreligion.com/jp/articles/80

著作　2006-2015 断　を禁じます。　2006 - 2023　IslamReligion.com. 断　を禁じます。